

令和7年度 昭島市立多摩辺中学校
国語科 年間指導計画、評価規準〔第1学年〕

学期	月	時数	単元名と内容	単元のねらい	観点別評価規準(主たるもの)				
					知識・技能	思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度
						A話すこと・聞くこと	B書くこと	C読むこと	
1	4	10	*言葉に出会うために 野原はうたう 声を届ける 1学びをひらく はじまりの風(物語)	いろいろな言葉にふれながら、学習の見通しをもつ	(1)ア音声の働きや仕組みについて理解を深めることができる。			(C(1)イ)「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。	音声の働きや仕組みについて進んで理解を深め、小学校での学習を生かして音読しようとしている。 場面の展開や心情の変化などについて、描写を基に積極的に捉え、学習の見通しをもって着目した表現や心情の変化について話
	5	12	話の構成を工夫しよう 漢字の組立と部首 2新しい視点へ ダイコンは大きな根? (説明文) 情報整理のレッスン 比較・分類 ちよっと立ち止まって(説明文)	説明の工夫を捉えながら、ものの見方を広げる	((1)イ)漢字の構成要素である「へん」や「つくり」などに注目して、読みを類推できる。 ((2)イ)比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。	(A(1)イ)「話すこと・聞くこと」において、自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えている。		(C(1)ア)「読むこと」において、文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。	話の構成を粘り強く考え、学習の見通しをもってスピーチをしようとしている。 文章の中心的部分と付加的な部分について積極的に捉え、今までの学習を生かして筆者の説明の工夫を伝え合おうとしている。 進んで要旨を把握し、学習の見通しをもって考えたことを伝え合おうとしている。
	6	13	情報を整理して書こう 指示する語句と接続する語句 3言葉に立ち止まる 空の詩3編 さまざまな表現技法 比喩で広がる言葉の世界 言葉の単位	豊かな表現にふれ、言葉のもつ力を考える	((1)エ)指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めている。 ((1)オ)比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。 ((1)エ)単語の類別について理解している。		(B(1)ア)「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。 (B(1)イ)「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。	(C(1)エ)「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。	集めた材料を粘り強く整理し、学習の見通しをもってわかりやすく説明する文章を書こうとしている。 詩の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、学習の見通しをもって詩を創作しようとしている。 比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法について、学習課題に沿って、積極的に理解を深めようとしている。
	7	9	心情を表す言葉 *情報×SDGs 情報収集の達人になろう *いつも本はそばに 読書を親しむ	作品を楽しみ、読書の世界を広げる	((1)ウ)事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。				引用のしかたや出典の示し方について積極的に理解を深め、今までの学習を生かして収集した情報を基に考えたことを書こうとしている。 読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを進んで理解し、今までの学習を生かして本の魅力や感想を伝え合おうとしている。
2	8 9	13	4心の動き 大人になれなかった弟たちに(物語) 星の花が降るころに(小説) 項目を立てて書こう 読み手の立場に立つ 方言と共通語	言葉を通して、人の思いに寄りそう	((3)ウ)共通語と方言の果たす役割について理解している。		(B(1)イ)「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。 (B(1)エ)「書くこと」において、読み手の立場に立つて、表記や語句の用法、叙述のしかたなどを確かめて、文章を整えている。	(C(1)イ)「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。 (C(1)ウ)「読むこと」において、場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈し、学習の見通しをもって考えを伝え合おうとし	登場人物の心情の変化などについて、描写を基に積極的に捉え、学習したことを生かして朗読しようとしている。 進んで場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈し、学習の見通しをもって考えを伝え合おうとし
	10	14	聞き上手になろう 漢字の音訓 5筋道を立てて 「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ(記録) 意見と根拠 根拠を示して説明しよう	根拠を明らかにしながら伝え合う	((2)ア)原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。	(A(1)エ)「話すこと・聞くこと」において、必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめている。	(B(1)ウ)「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。	(C(1)エ)「読むこと」において、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えている。	文章の構成や展開について粘り強く考え、学習の見通しをもって考えたことを文章にまとめようとしている。
	11	13	文の組み立て 6いにしえの心にふれる いろは歌 蓬莱の玉の枝 今に生きる言葉	古典の文章に出会い、現代とのつながりを考える	((1)エ)単語の類別について理解している。 ((3)イ)古典にはさまざまな種類の作品があることを知っている。 ((3)ア)音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。			(C(1)オ)「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かめるものになっている。	進んで古文を音読し、今までの学習を生かして描かれている古典の世界を想像しようとしている。 積極的に漢文を音読し、今までの学習を生かして故事成語を使った文章を書こうとしている。
	12	10	7価値を見いだす 「不便」の価値を見つめ直す(説明文) 筆者の主張に対する自分の意見を書こう 原因と結果 (話し合い)進め方について考えよう 話題や展開を捉えて話し合おう *いつも本はそばに 研究の現場によこそ 読書案内	発想を転換し、身近なものの新しい側面に光を当てる 言葉の使い方を知る 文章を読み、読書の世界を広げる	((2)ア)原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。 ((3)オ)読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。	(A(1)オ)「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。	(B(1)ウ)「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。	(C(1)ウ)「読むこと」において、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している。 (C(1)オ)「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かめるものになっている。	必要な情報に着目して、粘り強く要約し、試行錯誤しながら自分の考えを文章にまとめようとしている。
3	1	10	8自分を見つめる 少年の日の思い出(小説) 別の人物の視点から文章を書き換えよう 単語の分類 二十歳になった日(随筆)	作品や生活と向き合い、ものの見方を深める	((1)エ)単語の類別について理解している。		(B(1)ウ)「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。	(C(1)エ)「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。 (C(1)オ)「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かめるものになっている。	文章の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、学習の見通しをもって別の人物の視点から文章を書き換えようとしている。
	2	8	構成や描写を工夫して書こう 漢字の成り立ち 一年間の学びを振り返ろう	身の回りのさまざまな言葉について考える		(A(1)ウ)「話すこと・聞くこと」において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。	(B(1)イ)「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。		粘り強く文章の構成や展開を考え、学習の見通しをもって随筆を書こうとしている。 集めた材料を積極的に整理し、今までの学習を生かして要点を資料にまとめ、
	3	8	ぼくがここに 国語の力試し	一年間の学習を振り返る	((1)オ)比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。			(C(1)オ)「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かめるものになっている。	今までの学習を生かして、それぞれの学習課題に粘り強く取り組もうとしている。
合計		120	評価方法		定期考査・小テスト 暗唱 硬筆・毛筆等	発表、話し合いなど	作文 作品 定期考査	朗読 課題プリント 定期考査	提出物の状況 授業観察 レポート 書写振り返りシート等

評価規準	1. 上記の評価規準、評価方法に基づき各観点別に 2. 国語科では、	「A: 十分満足できる」 「B: おおむね満足できる」 「C: 努力を要する」 の3段階で評価する 80%以上の達成率＝A 50%以上80%未満の達成率＝B 50%未満の達成率＝C	と判定する
評定規準	各観点の％を総合して	90%以上＝5 80%以上90%未満＝4 50%以上80%未満＝3	20%以上50%未満＝2 20%未満＝1 と判定する

令和7年度 昭島市立多摩辺中学校
国語科 年間指導計画、評価規準〔第2学年〕

学期	月	時数	単元名と内容	単元の目標	観点別評価規準（主たるもの）					主体的に学習に取り組む態度
					知識・技能	思考・判断・表現			主観的に学習に取り組む態度	
						A話すこと・聞くこと	B書くこと	C読むこと		
1	4	10	見えないだけ 1 広がる学びへ アイスブラネット 意見を聞き、整理して検討する 自立語	詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする	単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解している。((1)オ)	「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。 (A(1)ア)		「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えている。 (C(1)ア)	登場人物の設定のしかたなどを積極的に捉え、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。	
	5	11	魅力的な提案をしよう 枕草子 2 多様な視点から クマゼミ増加の原因を探る	作者のものの見方や感じ方をとらえる 情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解して使う	作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。 ((3)ア) 現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。 ((3)イ)	「話すこと・聞くこと」において、自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫している。 (A(1)イ) 「話すこと・聞くこと」において、資料や機器を用いるなどして、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。 (A(1)ウ)		「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。 (C(1)ア) 「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係などを捉えている。 (C(1)ア) 「読むこと」において、文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈している。 (C(1)ウ)	自分の考えがわかりやすく伝わるように粘り強く表現を工夫し、学習の見通しをもってプレゼンテーションをしようとしている。 文章を読んで理解したことや考えたことを進んで知識や経験と結び付けようとしている。	
	6	12	思考の視覚化 情報を整理して伝えよう 3 言葉と向き合う 短歌に親しむ 短歌の創作教室 短歌を味わう	文章の構成や展開のしかたに注意して、内容を理解したり、話の内容を工夫したりする	情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。 ((2)イ)		「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。 (B(1)ア) 「書くこと」において、表現の効果を考える描写するなど、自分の考えが伝わる短歌になるように工夫している。 (B(1)ウ)	「読むこと」において、短歌を比較するなどし、表現の効果について考えている。 (C(1)エ) 「読むこと」において、短歌を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。 (C(1)オ)	表現の効果について進んで考え、学習の見通しをもって短歌を創作しようとしている。	
	7	11	言葉の力 類義語・対義語・多義語 ＊情報×SDGs メディアの特徴を生かして 情報を集めよう ＊いつも本はそばに 読書を楽しむ 翻訳作品を読み比べよう	抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする	抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。			「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。 (C(1)オ)	複数の情報を進んで整理しながら適切に読み取り、学習課題に沿って目的や状況に応じた情報収集のしかたについて考えをまとめようとしている。 本や文章などにはさまざまな立場や考え方が書かれていることを進んで理解し、今までの学習を生かして、本の魅力や感想を共有しようとしている。	
2	8 9	13	4 人間のきずな ヒューマノイド 字のない葉書 表現を工夫して書こう 表現の効果を考える 敬語 聞き上手になろう	登場人物の言動の意味について考えて、内容を解釈する 敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使う	敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。 ((1)カ) 言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。 ((1)ア)		「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考える描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 (B(1)ウ) 「書くこと」において、読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えている。 (B(1)エ)	「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。 (C(1)イ) 「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えている。 (C(1)エ)	登場人物の言動の意味について粘り強く考え、今までの学習を生かして作品の印象を伝え合おうとしている。 文章の構成や表現の効果について進んで考え、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。	
	10	13	同じ訓・同じ音をもつ漢字 5 論理を捉えて モアイは語る——地球の未来 根拠の吟味 意見文を書く 6 いにしえの心を訪ねる 音読を楽しむ 平家物語	論理の展開を理解した上で、筆者の主張を整理したり、情報と情報との関係を理解したりする	意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。 ((2)ア)		「書くこと」において、伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係を明確にし、文章の構成や展開を工夫している。 (B(1)イ) 「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考える描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 (B(1)オ)	「読むこと」において、文章の構成や論理の展開について考えている。 (C(1)エ) 「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。 (C(1)オ)	論理の展開について粘り強く吟味し、学習の見通しをもって筆者の主張に対する自分の考えを文章にまとめようとしている。	
	11	12	扇の的 ——「平家物語」から 仁和寺にある法師 漢詩の風景	古典の文章を音読・暗唱し、言葉の響きや調子を読み味わい、現代とのつながりを考える	作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。 ((3)ア) 現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。 ((3)イ)			「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。 (C(1)イ) 「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。 (C(1)オ) 「読むこと」において、観点を明確にして漢詩を比較するなどし、漢詩の構成や表現の効果について考えている。 (C(1)エ)	登場人物の言動の意味について進んで考え、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。 進んで漢詩の構成や表現の効果を考え、今までの学習を生かして朗読しようとしている。	
	12	10	7 価値を語る 君は「最後の晩餐」を知っているか 「最後の晩餐」の新しさ 具体と抽象 話し合いの流れを整理しよう 用言の活用 討論で視野を広げる ＊いつも本はそばに	観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考える	意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。 ((2)ア) 単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解している。 ((1)オ)	「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。 (A(1)オ)		「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている。 (C(1)エ) 「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。 (C(1)オ)	進んで観点を明確にして文章を比較し、学習の見通しをもって考えたことを文章にまとめようとしている。	
3	1	9	8 表現を見つめる 走れメロス 付属語 心の動きが伝わるように 物語を書く	物語を読んだり、書いた文章を交流する中で、多様な考えができる事柄について考え、意見を述べる	単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解する。 ((1)オ)		「書くこと」において、表現の効果を考える描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 (B(1)ウ) 「書くこと」において、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。 (B(1)オ)	「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。 (C(1)イ) 「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。 (C(1)オ)	登場人物の言動の意味などについて粘り強く考え、学習の見通しをもって作品の魅力を文章にまとめようとしている。 粘り強く描写を工夫し、学習の見通しをもって物語を創作しようとしている。	
	2	11	話し言葉と書き言葉 送り仮名 「国語を学ぶ意義」を考え、コピーを作る	1年間の学習を振り返り、国語を学ぶ意義を見いだす	話し言葉と書き言葉の特徴について理解している。 ((1)イ)				粘り強く国語を学ぶ意義を考え、今までの学習を生かしてコピーにまとめてクラスで交流しようとしている。	
	3	8	鍵 国語の力試し	言葉がもつ価値を認識するとともに、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合う					「読むこと」において、詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。 (C(1)オ)	今までの学習を生かして、それぞれの学習課題に粘り強く取り組もうとしている。
合計		120	評価方法		ペーパーテスト 確認テスト 硬筆・毛筆等	発表、聞き取り 応答、暗唱 暗唱等	作文 鑑賞文 ペーパーテスト等	ペーパーテスト 課題プリント	提出物の状況 ノート 授業観察 書写振り返りシート	

評価規準	1. 上記の評価規準、評価方法に基づき各観点別に	〔 「A: 十分満足できる」 「B: おおむね満足できる」 「C: 努力を要する」 の3段階で評価する 80%以上の達成率＝A 50%以上80%未満の達成率＝B 50%未満の達成率＝C	と判定する
	2. 国語科では、		
評定規準	各観点の％を総合して	90%以上＝5 80%以上90%未満＝4 50%以上80%未満＝3	20%以上50%未満＝2 20%未満＝1 と判定する

令和6年度 昭島市立多摩辺中学校
国語科 年間指導計画、評価規準〔第3学年〕

学期	月	時数	単元名と内容	単元のねらい	観点別評価規準(主たるもの)				主体的に学習に取り組む態度
					知識・技能	思考・判断・表現			
						A話すこと・聞くこと	B書くこと	C読むこと	
1	4 5	2	「世界は美しいと」	語感を磨き語彙を豊かにする	詩に用いられている語句や表現に着目し、語感を磨き語彙を豊かにする				進んで語感を磨き、友達の考えをきいて詩の解釈をしようとしている
		9	1深まる学びへ「握手」「学びて時に之を習ふ―論語から」	人間や社会に対する自分の意見を持ち、作品を評価する 孔子の考え方を、自分たちの生活と関連づけて考える	作品に使われている言葉や表現に着目して読んでいる 漢字をおおむね正しく読んだり選んだりしている		作品を読み、登場人物の生き方、考え方について、自分なりの意見を持ち、文章に書くことができる	文章の種類を踏まえて、物語の展開のしかたなどを捉えている	作品を読み、自分の考えを深めようとしている 孔子の考えを自分たちに関連づけて読もうとしている
		5	情報整理のレッスン 評価しながら聞く 漢字1熟語の読み方	自分の考えと比較し評価しながら相手の考えを聞き、自分のものの見方や考え方に役立てる	学習課題に沿って情報の信頼性の確かめ方を理解し、積極的に使おうとしている	「聞き取りマップ」にメモを取り、自分の考えを整理している		文章の種類を踏まえて、物語の展開のしかたなどを捉えている	相手の考えと自分の考えと比べながら聞き取り、自分の表現に役立てようとする
	6	9	2視野を広げて作られた「物語」を超えて思考のレッスン具体化・抽象化 文法への扉1すいかは幾つ必要？	文章の種類を踏まえて、論理の展開のしかたなどを捉えることができる	文法的な観点から誤解の生じた原因を理解し、練習問題をおおむね正確に解いている			原因と結果、意見と根拠、具体と抽象などの関係に着目して、論理の展開のしかたを図式化して捉えている	具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている
		7	4	実用的な文章を読もう	情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる	実用的な文章の資料ごとに、情報の発信者・発信時・発信目的を確認している		文章の構成や論理の展開、表現のしかたについて評価している	
	8		3言葉とともに俳句の可能性 俳句を味わう 言葉を選ぼう 和語・漢語・外来語	筆者のものの見方や感じ方、表現のしかたなどを読み味わい、俳句の世界に親しむ 場の状況や相手に応じて言葉の選び方や伝え方を考える	進んで文章の種類とその特徴について理解し、学習課題に沿って、鑑賞文を書いたり俳句を創作したりしようとしている	場の状況や相手の様子に応じることの具体的な観点を理解し、工夫して話すことができる		俳句の約束事を理解し、俳句に込められた作者の思いや情景を読み味わっている	俳句の形式に興味をもち、表現上の特長を生かして俳句を作ろうとしている 和語・漢語・外来語の使い分けを理解しようとしている
2	8	3	読書生活を豊かに読書に親しむ 「私の一冊」を探しに行こう	目的を持って本を読み、表現上の特徴、文章の展開や場面・登場人物の設定などから文章を評価し、自分の考えを広げたり深めたりする	語感を磨き語彙を豊かにしている			表現や場面・人物設定などに着目して読み、自分のものの見方や考え方を高めるとともに、読書生活について考えている	自分の読書生活に関心を持ち、読書について話し合ったり本の幅を広げたりしようとしている
		12	4状況の中で挨拶——原爆の写真によせて故郷 聞き上手になろう 慣用句・ことわざ・故事成語	作品を通して人間と社会との関わりについて考え、自分の意見を持つ 情景や人物を描写する語句や表現を評価しながら、登場人物の心情や作者の意図を読み取る	作品に出てくる漢語などから語感を磨き、語彙を豊かにしている 慣用句・ことわざ・故事成語を適切に使っている		登場人物や状況を通して主人公の思いを考え、文章に表現することができる	情景や人物を描写する語句や表現に着目し登場人物の心情や作者の意図を読み取ることができる	作品の書かれた時代に興味を持ち、作者の思いを自分に照らし合わせて考えようとしている
	10	9	5自らの考えを人工知能との未来 人間と人工知能と創造性 多角的に分析して書こう 説得力のある批評文を書く 話し合いを効果的に進める	文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる	全体に関わる大きな論点から、具体的な論点へと話し合いを進める方法を考えている	話し合いの目的や進み具合など展望をもって効果的に話し合う工夫を考えている	自分の意見を支える根拠となる資料を引用するなどして構成を考え、批評文を書いている	二つの文章を比較して共通点や相違点を表にまとめ、それを基に、話し合っている	積極的に二つの文章を批判的に読み、学習課題に沿って自分の考えを文章にまとめようとしている
		12	6いにしえの心を受け継ぐ古今和歌集 仮名序 君待つと 夏草	歴史的な背景に注意して読み、昔の人の心情や情景を読み味わうとともに、人間や自然などについて自分の考えをもつ	現代語訳をもとに和歌を読んでいる 作品に親しみ、芭蕉のものの見方について考えている		書かれた時代や作者の思いを感じて、鑑賞文を書くことができる	和歌の表現技法や語句の使い方に気づいて読み、感想を持つことができる	それぞれの和歌集に興味を持ち、和歌に表れた古人の心情や情景について現代語訳をもとに想像しようとしている
	12 1	9	7価値を生み出す誰かの代わりにグラフを基に小論文を書く 文法への扉2「ない」の違いがわからない？	文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる	単語の類別について理解するとともに、単語の活用、助詞や助動詞などの働きについて理解している		資料から読み取ったことと考えとの関連などについて、改善点を助言し合って推敲している	文章を批判的に読み、友達と意見を交換しながら、筆者の考えについて自分の考えをまとめている	進んで自分の意見を持ち、討論したり文章にまとめたりしようとしている 三年間の文法学習を振り返り、苦手な箇所を克服しようとしている
		3	4	読書に親しむエルサルバドルの少女 ヘスース 紛争地の看護師	読書を通して世界の人々の姿を知り、人間の生き方や社会の在り方について考える	使われている語句に興味を持ち、意味や類義語などを調べている			文章の中で人物の生き方や考え方にふれ、考えを深める
4	8未来へ向かって温かいスープ 私を束ねないで		詩における表現の工夫に注意して読み、人間・社会・自然などについて考え、自分の意見をもつ	文章を読み、語感を磨き語彙を豊かにしている		作品に込められた作者の思いを読み取り、感想を書くことができる	作品を読み、これからの国際社会における自分の生き方について考えている	作品に込められたメッセージを受け止めようとしている	
	3	5	三年間の歩みを振り返ろう 学習を振り返ろう	言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする	相手や場を意識しながら適切な言葉を選び、自分の考えを伝えている		「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している		粘り強く言葉を選んだり構成を工夫したりし、これまでの学習を生かして、文章にまとめたり、友達の発表を聞いて質問したり評価したりしようとしている
合計		95	評価方法		定期テスト・ワークシート 小テスト(漢字・文法) 硬筆・毛筆	発表 聞き取り 話し合い活動の状況	作品・作文 ワークシート 定期テスト	定期テスト ワークシート 音読・朗読	授業観察 提出物の状況

評価基準	1. 上記の評価規準、評価方法に基づき各観点別に 2. 国語科では、	「A: 十分満足できる」 「B: おおむね満足できる」 「C: 努力を要する」 の3段階で評価する 80%以上の達成率＝A 50%以上80%未満の達成率＝B 50%未満の達成率＝C と判定する
評定基準	各観点の％を総合して	90%以上＝5 80%以上90%未満＝4 50%以上80%未満＝3 20%以上50%未満＝2 20%未満＝1 と判定する

令和7年度 昭島市立多摩辺中学校
国語科・書写 年間指導計画、評価規準〔第1・2・3学年〕

年	月	時数	単元名と内容	単元のねらい	観点別評価規準(主たるもの)		
					知識・技能	主体的に学習に取り組む態度	
1	4	3	*学習のはじめに	硬筆・毛筆の持ち方と姿勢を確認して書く	小学校で学習したことを想起し、筆使い・筆順・字形、配列・配置が文字を整えて書く要素であることを確認することができる	中学1年における書写の学習内容や目標を理解しようとしている	
		5	2	漢字の筆使い	漢字を構成する点画の種類と、その筆使いを確かめて書く	楷書の基本的な点画の筆使いを理解して、書くことができる 筆順の原則を理解して、正しい筆順で字形を整えて書くことができる	基本の点画を確かめながら、意欲的に漢字を書こうとしている
			2	楷書に調和する仮名	平仮名の筆使いや字形を確かめて書く	平仮名は漢字よりやや小さく書くと調和が取れることを理解することができる 楷書に調和する平仮名の字形や筆使いを確認し、書くことができる	進んで平仮名の筆使いや字形を確認しながら書こうとしている
	9 ～ 11	4	行書の特徴	行書の特徴を知り、筆使いを理解して書く	楷書と行書を比較し、筆使い・字形・筆順・書く速度の相違を理解するとともに、行書の点画の丸みと連続を理解し、書くことができる	行書の筆使いを理解し、それを生かして粘り強く行書を書こうとしている	
		12 ～ 1	5	点画の変化 点画の連続	行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を書く	行書の基礎的な書き方を理解し、身近な文字を書くことができる 文字の大きさや配置・配列を確認して、行書による書き初めを書くことができる	日常に役立つ書式について理解し、積極的に生活に生かそうとしている
2 ～ 3	4		一年間の学習のまとめ	一年間で学習したことを確認する	毛筆で学習した、楷書の筆使い・筆順・字形・仮名との調和、行書の点画の丸み・連続・省略・文字の配列配置、などの基本的事項を確認することができる 書写の学習を生かして、学校生活に必要な掲示物を書くことができる	進んで一年間の学びを振り返り、学習したことを生かして字を書いている	
2	5 ～ 7	4	点画の省略	点画の省略を理解して、行書で書く	行書の特徴を知り、点画の省略と連続の仕方を理解し、書くことができる	行書の特徴を理解した上で、さまざまな字を行書で書こうとしている	
		4	筆順の変化	筆順の変化を理解して、行書で書く	行書の特徴を知り、筆順の変化と連続の仕方について理解し、書くことができる	行書における筆順の変化を理解した上で、意欲的に字を書こうとしている	
		4	行書に調和する仮名	行書と仮名の調和を意識して書く	行書に調和する仮名の筆使いを理解して、紙面全体の調和を考えて、文字の大きさや配列を考えて書くことができる 行書と仮名を調和させ、速く書くことができる	意欲的に練習に取り組む、課題意識をもって取り組んでいる	
		5	書き初めを書く	文字の大きさや配置などに注意して、調和よく書く	文字の大きさや配置などに注意して、調和よく書くことができる	書いた字を何度も見直ししながら、粘り強く書き初めの字を書こうとしている	
		4	行書を活用する 楷書と行書の使い分け	行書のよさを生かし、日常生活で使う 場面に応じて、楷書か行書を選択する	ノートや壁新聞などに、行書のよさを生かして読みやすく速く書くことができる 場面に応じて、楷書か行書を使い分ける必要があることを理解している	目的や用途を考え、意欲的に取り組んでいる	
3	4 ～ 6	3	文字の使い分け	目的に応じて、文字を使い分ける必要があることを理解する	目的に応じて、文字を使い分ける必要があることを理解している	文字の使い分けを理解し、進んで様々な場面で使い分けようとしている	
		3	三年間のまとめ	三年間で学習したことを確かめる	楷書・行書の特徴を理解し、筆使い・筆順・点画を意識して書くことができる 紙面全体の調和を考えて、文字の大きさや配列を考えて書くことができる 楷書・行書と仮名を調和させ書くことができる	意欲的に練習に取り組む、課題意識をもって取り組んでいる	
	12 ～ 1	3	書き初めを書く	これまでの書写の学習を生かし、文字の大きさや配置などに注意して、調和よく書く	これまでの書写の学習を生かし、文字の大きさや配置などに注意して、調和よく書くことができる	3年間の振り返りしながら、意欲的に取り組んでいる	
		2 ～ 3	1	自分らしい文字について考える	これまでの書写の学習を生かし、好きな言葉を書く	これまでの書写の学習を生かし、効果的に言葉を書くことができる 文字には人柄や個性が出ることを理解する	3年間の振り返りしながら、自分の文字の良さを認め、書こうとしている
授業時数		1学年20 2学年20 3学年10					